

グローバルキャンプ

1 事業のねらい

外国の言語や文化に触れる機会の提供をとおして、グローバル人材としての素地を養うとともに、持続可能な社会の創り手としての資質を高める。

2 事業の概要

- 期日 R3.2.6(土) 日帰り
- 対象 小学5年生～中学生
- 人数 16名
- 場所 ネイパル深川
- 協力 芦別市教育委員会、深川市教育委員会、北竜町教育委員会

3 プログラム

10	11	12	13	14	15	16	
受付	開 会 式	イングリッシュ ゲーム	昼 食	SDGs ワークショップ	ワールドツアー 体験	閉 会 式	解散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 体験的に理解する外国文化
 - ・ALT等の講師による母国紹介ブースを巡る活動を行い、外国人と交流したり、それぞれの国の言葉や文化などに触れたりする機会を増やすようにした。
 - ・ゲームなどを通して、楽しく会話しながら活動する中で、英語や外国文化に触れることができるようにした。
- はじめて学ぶ人に向けたSDGsワーク
 - ・SDGsという言葉自体にはじめて触れる参加者に向け、一つ一つの目標を丁寧に取り上げて解説し、自分の生活とのつながりを考えさせるなど、取り組みやすい内容で実施した。



ゲームをとおして交流を深める



SDGsについて学ぶ

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・すべての参加者が「外国の生活や文化について理解を深めることができた」と回答した。
 - ・ほとんどの参加者が「SDGsについて知り、自分にも関係のあることだと考えることができた」、「今日の体験のほかにもグローバル（国際理解）について学んでみたい」と回答した。
- 参加者の声
 - ・いろいろな国の文化などを知ることができた。
 - ・SDGsについて大まかにしか知らなかったののでしっかり知ることができてよかった。
 - ・教えてもらった国だけでなく、他の国のことも調べてみたい。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートでSDGsの学びについて肯定的な回答が多かったことから、体験的な活動やワークショップを設定したことにより、SDGsについての理解を深められたものと考えられる。
- グローバル人材としての素地を養うために、英語圏以外のブースを増やすなど、より国際色豊かな事業にするための手立てが必要である。



企画のポイント

楽しい雰囲気、外国の文化や言語に触れることができるプログラムの設定

ジュニアイングリッシュキャンプ

1 事業のねらい

ALT（外国語指導助手）との交流を通して、英語や外国の文化に触れ、英語を学ぶ意欲を高める。

2 事業の概要

- 期日 R3.1.9(土)～10(日) 1泊2日
- 対象 4歳～小2までの幼児・児童とその保護者
- 人数 11家族28名
- 場所 ネイパル森
- 協力 北海道大沼国際セミナーハウス、森町教育委員会、鹿部町教育委員会、函館市立函館高等学校

3 プログラム

	9:00			11:00		12:00	13:00	13:30	15:00		17:30	19:00	20:00	21:00	22:00
1/9 (土)							開 会 式	活 動 ① レ ク リ エ ー シ ョ ン	活 動 ② 雪 と 英 語 で 遊 ぼ う	夕 食	交 流	入 浴	就 寝 準 備	就 寝	
1/10 (日)	起 床	朝 食	清 掃 点 検	活 動 ③ パ ー ティ の 準 備 を し よ う 保 護 者 講 話	活 動 ④ ピ ザ パ ー ティ	閉 会 式									

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 楽しみながら触れる外国文化
 - ・ALTを含んだグループ編成とし、外国人と遊んだり、英語で話したりする機会を増やすようにした。
 - ・自然体験や調理など、自然に会話が生まれるような活動を通じて英語でコミュニケーションをとれるようにした。
- 家庭でも取り組める活動
 - ・ゲームや雪遊び、ピザ作りなど、幼児や低学年が参加しやすく帰宅後も家族で取り組みやすい内容で実施した。
 - ・親子別の活動で子供は英会話の練習を、大人は国際理解に関する学習を行い、帰宅後も親子で英語に親しめるようにした。

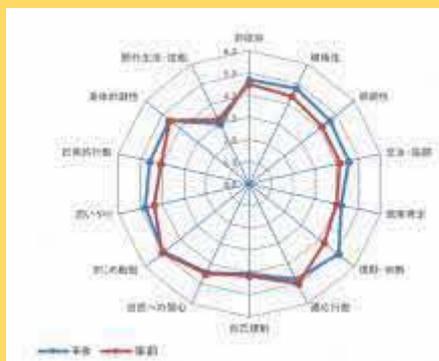


ALTと英語で交流



自然に会話が生まれる活動

5 事業の評価



- IKR 調査による変化
 - ・「視野・判断」が0.8P、「日常的行動」が0.5P 向上
 - ・「交友・協調」「明朗性」は大きな変化なし
- 参加者の声
 - ・ALTとたくさん交流したことや、英語で話したことが楽しかった。(子)
 - ・苦手意識を克服し、自信を持って笑顔で話せていた。(親)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 保護者のアンケートでは「我が子が自分から英語で話していた」との声が比較的多かったことから、ALTと交流できる場を多くすることによって、意欲を喚起できたと考えられる。
- 「交友・協調」「明朗性」に変化がなかったことから、外国人と気軽に交流できる場の雰囲気作りや活動内容の工夫が必要である。



企画のポイント

自然に会話が生まれ、英語でコミュニケーションがとれるプログラムの設定